

① 仙翁寺 (三河安城本町)

仙翁寺は、金鳳山と号し、曹洞宗の寺院です。楞嚴寺(刈谷市)の末寺として刈谷市に創建されたものが、明治36年(1903)に現在の地に移転改築されました。

② 明治用水中井筋の親水施設 (三河安城本町)

明治用水から取水口に近い水路は水がきれい、戦前は農具や野菜だけでなく食器洗いや洗濯も行われていました。明治用水の水路は、今はほとんどが管水路化され、地下を流れていますが、長根公園の南側では今でも地上を流れる明治用水を見ることができます。

③ 東海道新幹線・東海道本線三河安城駅 (三河安城町)

東海道新幹線・東海道本線三河安城駅は、昭和63年(1988)に西三河地区の玄関口として開設されました。三河安城駅の駅舎の外観は、かつて「日本デンマーク」と呼ばれた安城にちなみ、北欧の建物をイメージしてデザインされました。三河安城駅の開業によって、周辺の町並みは大きく変貌し現在も変化し続けています。駅前広場にはモニュメントとして「収穫の塔(稲穂の成長を表す)」と「二十一世紀の塔(センチュリータワー)」が、乗降客を出迎えています。

④ 明治用水二本木分水工 (三河安城町)

分水工とは、水路の流水を必要箇所へ分流させる施設のことです。ここでは、明治用水の中井筋の水を神楽山用水、新道用水、蛭畔用水の3本の支流へ分岐しています。

⑤ 明治用水桜並木 (篠目町)

明治用水中井筋は、そのほとんどが流路が地下の流れ、地上部は緑道として整備されています。緑道には約300本の桜が植えられ、地元の有志「篠目桜・ほたる同好会」により、春には見事な桜並木を、夏には取水したせせらぎで幻想的な蜩の光を見ることができます。季節ごとに桜や蜩の鑑賞会も行われています。

コラム「明治用水とは」

江戸時代末期、和泉村の豪農であり酒造業も営んでいた都築弥厚は、矢作川上流から水を引きおよそ30kmの水路によって安城の瘦せた台地を潤す計画を立てました。弥厚の死によってこの計画は一旦は頓挫しましたが、明治の初めに岡本兵松と伊豫田与八郎の2人によって計画は引き継がれ、明治13年(1880)についに明治用水は完成しました。用水の開削によって不毛の地であった安城の地は次々と水田が開墾され、農業は目覚ましく発展し、日本デンマークの素地ができあがりました。

安城 歴史の散歩道

⑥ 神楽山地蔵尊・観世普像 (二本木新町)

右手に鎮座しているのが観世普菩薩で、右手を頬に当て、子どもの歯痛を救う慈悲の化身として敬われていました。左手の地藏尊は昭和42年(1967)9月に国鉄踏切事故により殉死した機関士を慰霊するため、遺族により建立されました。

⑦ 神楽山秋葉社 (三河安城町)

昭和29年(1954)にこの付近の家屋が全焼し1人の住民が犠牲となりました。その後、住民によって、防火鎮火の神とされる秋葉社が建立されました。

⑧ 高津社 (井杭山町)

明専寺は篠目山と号する、真宗大谷派の寺院です。寛永4年(1627)の創立と伝えられます。寺は一時荒廃していたようですが、宝永4年(1707)4月23日、慶山により再建され、村人総出で本堂を建立したとのことです。現在の本堂は、文政3年(1820)に再建され、続く天保5年(1834)頃に山門が建てられており、この頃に伽藍の再建が行われたことが知られています。昭和19年(1944)12月と昭和20年(1945)1月の大地震で被害を受け大修理を実施しました。鐘楼の梵鐘は戦時中、取り外され国に供出されました。その後、昭和22年(1947)に鐘が再鋳造され、昭和35年(1960)には鐘楼も現在のように復元されました。

⑧ ツブラジイ (井杭山町：高津社境内)

ツブラジイは、ブナ科シイ属の常緑高木です。幹は地上1.3m程度で南と北に分かれており、胸高囲は南幹267.5cm、北幹340.5cmに及ぶ見事な巨木です。しめ縄が巻かれご神木として扱われています。樹齢は、350年程度と推定されます。

⑧ アラカシ (井杭山町：高津社境内)

アラカシは、ブナ科コナラ属の常緑高木です。胸高囲は290cmで、樹齢は300年程度と考えられます。

⑨ 明専寺 (篠目町)

文久年間(1861～1864)、野立ちだった地藏を、村人が地藏堂を建てお招きしたと伝えられます。ある年、疫病が大流行し子供たちが苦しんだ際、人々は病氣平癒を地藏に願ったところ、子供たちは皆元気になったといま

三河安城駅周辺の開拓地めぐり

⑩ 篠目八幡宮 (篠目町)

創立は不詳ですが、篠目八幡宮祭神御事歴略記には、拝殿は天保14年(1843)9月上旬と明記されています。本殿の建立時期は不明です。渡殿は、明治41年(1908)新築、社務所は明治42年(1909)に新築されました。祭神は品陀別尊(応神天皇)です。

⑪ 地藏尊 (篠目町) ハゼ原三叉路

この地藏尊は道標で、「右安城□□□(判読不能)、左安城ステーション」とあることから、安城駅ができた明治24年以降に設置されたと考えられます。

⑫ 童地藏尊 (篠目町)

文久年間(1861～1864)、野立ちだった地藏を、村人が地藏堂を建てお招きしたと伝えられます。ある年、疫病が大流行し子供たちが苦しんだ際、人々は病氣平癒を地藏に願ったところ、子供たちは皆元気になったといま

⑬ 梨の里 (篠目町)

明治38年(1905)頃、長十郎という梨が植えられ、安城では梨の栽培が盛んになりました。大正4年(1915)頃には二十世紀梨が植えられて「安城ナシ」と呼ばれるようになり、安城は梨の里として有名になりました。現在も篠目町には梨団地が広がっており、平成18年(2006)篠目町に新設された小学校は「梨の里小学校」と名づけられました。

⑭ 津島社・藪田地蔵尊 (美園町)

左手の津島社は大正7年(1918)頃にこのあたりで疫病が流行したため、古来から疫病除けの神として信仰されていた津島社(津島市)を勧請し、無病息災を願ったのが始まりです。右手の地藏尊は、鉄道事故で亡くなった人の冥福を祈るため大正初めに建てられ、区画整理事業に際してこの地に移されました。

⑮ 雙樹寺 (緑町)

雙樹寺は浄土宗に属し、明治13年(1880)以降、明治用水中井筋沿いの新田開拓により移住者が増えるなか、尼僧による説教場として創建されたと言われています。現在の本堂は、墨書きから碧海郡高濱村(高浜市)の蓮乗院本堂を明治27年(1894)に買い受け、移築したことが分かります。民話によると二本木の町名の由来にもなった2本の松が当寺の北側にあったこと、お釈迦様が入滅した場所四方に2本ずつ沙羅双樹の木が植えられていたことから双樹寺(雙樹寺)と名づけられたとされます。

⑯ 二本木道標 (二本木町)

幕末頃に立てられた道標であり「右のでら」「左おかざき」と書かれています。往時、この道は、刈谷方面から安城市南部や、岡崎方面へ向う主要道路でした。「のでら」とは、三河三か寺の一つ、本證寺を指します。本證寺は本山の東本願寺から中本山としての地位を与えられ末寺の取りまとめ役を担った、西三河の中心的な寺院でした。

⑰ 移住記念碑 (二本木町)

明治初年の二本木は、安城ヶ原とならんで野田山、あるいは野田原と呼ばれた無人の小松原の台地で、明治用水開削後、この原野を開拓しようとして各地から人々が移住し、やがて緑の水田地帯へと変わりました。これも移住農家の人々が共に助け合い、協力して来た結果であり、この事を忘れずに後世に伝えようと、昭和3年(1928)11月に明治14年(1881)から明治35年(1902)までに美濃・尾張・幡豆などから移住してきた15名の名を記した記念碑を建立しました。

⑱ 春日社 (緑町)

明治の初め頃、尾張楽田村(犬山市)からの12戸の入植者が、心の支えとして氏神の春日神社の分霊を持参して祀ったとされます。しかし、開拓作業は困難が続き、1戸を除き郷里に戻らざるを得ませんでした。現在では、残った1戸の子孫によって祀られています。

⑲ 二本木八幡社 (緑町)

明治の初め、この地に茶園を開いた家が家業の守り神として秋葉社・稲荷社・山神社を祀ったのが始まりです。その後、明治用水が完成し開拓者が増え、村の人々の守り神となりました。昭和29年(1954)本殿が創建され、さらに狛犬・鳥居・拝殿・灯籠などが建てられ、神社としての姿が完成しました。祭神は、野田八幡宮と伊賀八幡宮の分霊を合祀しています。

⑳ 殉國之碑 (緑町)

二本木出身の戦没者遺族の希望により、戦没者を祀る石碑が建立されています。中央右側は昭和33年(1958)3月に、左側は平成7年(1995)9月に建てられ戦争で犠牲となった方々の芳名が刻まれています。同じような碑が安城市内各所にあります。

㉑ 旧二本木産業組合農業倉庫 (緑町)

昭和17年(1942)に、有限会社野田信用販売購買組合二本木支所の農業倉庫として建築されました。当時、政府の食糧統制のために主に米の保管庫として使用されてきました。昭和23年(1948)野田農業協同組合より分離して、二本木農業協同組合となりました。現在はあいち中央農業協同組合二本木支店です。

コラム「二本木町の変遷」

二本木という地名は江戸時代からあり、当時は野田村に属していました。明治36年(1903)に碧海郡依佐美村大字野田字二本木となり、昭和30年(1955)に依佐美村は刈谷市と合併しました。しかし当時の二本木地区は純農村地帯で、農都安城とのつながりや子どもたちの教育面でも安城市との関係が深かったため安城市に編入合併しました。また、同じく依佐美村の井杭山地区も安城市篠目地区に隣接し、安城の経済・文化・教育圏内であったことから安城市への編入を選択しました。



